

2009 年（平成 21 年） 段ボールの需要予測

全段連企画委員会は、平成 21 年 2 月 20 日に、2009 年（平成 21 年）の段ボール需要予測を次の通り取りまとめた。

1) 2009 年（暦年）段ボール需要予測 12,500 百万㎡ 前年比 92%

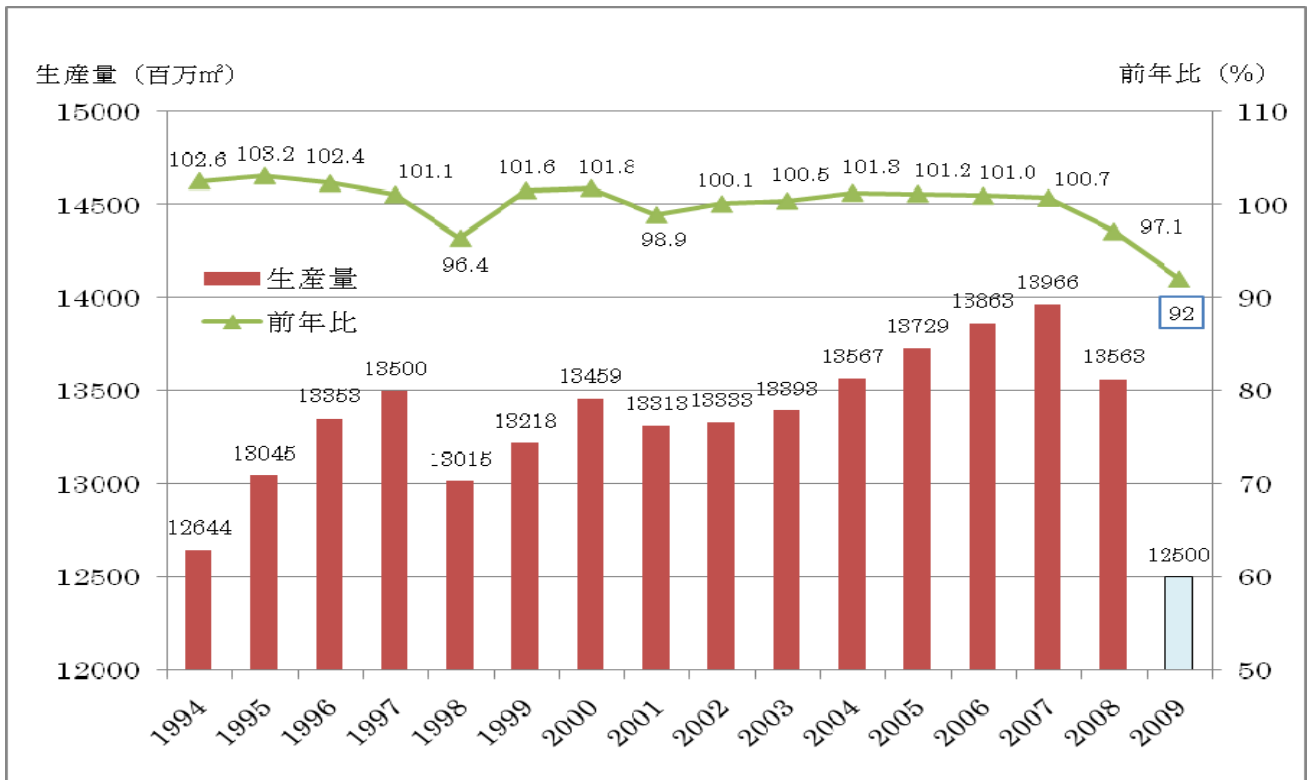
2008 年度の段ボール需要は 13,563 百万㎡、前年比 97.1%と 7 年振りに前年割れとなった。特にリーマンショック後の世界的金融危機の影響もあり、10 月－12 月期は前年比 92.7%と大きな落ち込みとなっている。

実質 GDP 成長率予測は、昨年 12 月の各民間調査機関の平均値で、2008 年▲0.8%、2009 年▲1.0%であるが、今年 1 月に発表された日銀の予測では、2008 年▲1.8%、2009 年▲2.0%となっており、民間調査機関の予測も次回下方修正されると思われる。

全段連企画委員会では、このような経済見通しを受けて、2009 年段ボール需要をさらに前年を大きく下回る 125 億㎡（前年比 92%）と予想した。

年間の内訳としては、1－3 月 89%、4－9 月 91%、10－12 月 98% とした。

段ボール生産量推移



2) 需要部門別の動向

- ・ 電気器具・機械器具用 (2008年構成比 9.0%) 予測伸長率 年間 82% 上期 81%
世界同時不況と円高で自動車関連、家電の輸出が激減し、国内需要も景気悪化で低迷する。好調だったデジタル家電も、2011年デジタル放送開始による薄型テレビの買い替え需要はあるが、北京五輪、年末需要向けの在庫が思うように減らず減産が予想される。景気悪化の影響を最も大きく受ける分野であり、特に年前半は需要先メーカーの在庫調整による減産で大幅減が予想される。
- ・ 薬品・洗剤・化粧品用 (2008年構成比 6.0%) 予測伸長率 年間 92% 上期 91%
医薬品、洗剤関係など生活必需品も多く、景気悪化の影響は比較的少ないが、雇用・所得環境の悪化による消費マインドの低迷によりマイナスは避けられない。4月からの改正薬事法施行で医薬品が薬局以外でも販売可能になることや、生活習慣病関連、男性化粧品など好調分野もあるなど、プラス要因はあるものの、消費マインドの低迷による節約志向、買い控えなどによる減が大きく、全体としては8%程度の減少と予想した。
- ・ 加工食品用 (2008年構成比 39.2%) 予測伸長率 年間 94% 上期 93%
最大の需要部門で、2004年から2007年まで段ボール需要が4年連続過去最高記録を更新してきたのは加工食品の伸びによるものであった。しかし、2008年は前年比98.3%とマイナスとなっている。加工食品が前年割れとなるのは1975年のオイルショック後以来のことであり、この最大の要因は伸び続けていた飲料の需要が頭打ちになったことと思われる。加工食品全体としては景気悪化の影響が比較的少ない分野であり、外食から内食への転換によるレトルト・インスタント食品などの増加要因もあるが、飲料の頭打ち傾向と消費の低迷によるマイナスを考慮し、年間6%のダウンと予想した。
- ・ 青果物用 (2008年構成比 13.0%) 予測伸長率 年間 95% 上期 95%
景気の影響はほとんど受けない分野であるが、作付け面積の減少傾向は止まらず、プラスチックコンテナの増による影響なども考慮し、5%減と予想した。
- ・ その他食品用 (2008年構成比 4.5%) 予測伸長率 年間 94% 上期 92%
水産関係、鶏卵・カット肉など未加工食品の分野で、漁業関係は昨年の燃料高騰による影響は緩和されるが、全体としては景気後退、消費低迷を受けて減少すると予測した。
- ・ 繊維製品用 (2008年構成比 2.4%) 予測伸長率 年間 89% 上期 86%
依然、輸入品に押され国内生産の減少傾向が続いている。さらに景気後退の影響で百貨店、スーパーの衣料品の販売不振は顕著であり、今年は消費低迷の影響を大きく受けて大幅減が予想される。

- ・ 陶磁器・ガラス・雑貨用（2008年構成比 5.8%） 予測伸長率 年間 90% 上期 87%
雇用情勢、所得環境の悪化により依然住宅の販売環境は厳しく、住宅ローン減税の押し上げ効果はあるが、この厳しさは今後も続くと思われる。日用雑貨も個人消費の低迷により不振が続く。10月ごろからは前年がすでに落ち込んでおり減少巾も小さくなるが、年間では10%減と予想した。
- ・ 通販・宅配・引越用（2008年構成比 2.8%） 予測伸長率 年間 97% 上期 96%
2008年は前年比106.6%と唯一伸びた好調分野であるが、2009年は個人消費の低迷による影響は避けられずマイナスに転じると予想した。
- ・ その他製箱用（2008年構成比 16.4%） 予測伸長率 年間 91% 上期 89%
ティッシュ・コピー紙などの紙製品、木製家具・建材、玩具・ゲーム機、ペット用品、事務用品・書籍。レジャー・スポーツ用品など幅広い分野であるが、全体としては円高による輸入品の増と消費低迷の影響で9%減と予測した。
- ・ 包装用以外（2008年構成比 0.9%） 予測伸長率 年間 93% 上期 91%
段ボールパレット、家具などがこの分野の主なものと思われ、2008年は年間で108.8%と伸びたが、10 - 12月では97.5%と減少している。今年は、円高による輸出関係の減、電気・機械分野の不振が予想され、さらに減少巾が大きくなると予測した。

以上